

令和4年度FD・SD講演会 実施報告書

- 1 日 時 令和5年2月13日（月）14時00分～15時30分
- 2 開催方法 オンライン（Zoom）
- 3 内 容 多様化する障害学生の支援について
（講師）筑波大学 ヒューマンエンパワーメント推進局
中野 泰伺 助教
- 4 参加者数 92名（教員54名、職員38名）
- 5 アンケート結果 （略）

6 今後の課題等

- 障害学生の支援について、昨今の社会状況や、筑波大学の先端的な取り組み事例を紹介いただき、学生の個別の状況に対して本学ではどのような配慮ができるか、教職員が考える機会となった。
- 日頃学生と直接関わる機会が多い教職員からは、多様化する学生の障害に対してどのような配慮をするべきか悩みを抱えているという声が、アンケートや質疑応答の中で寄せられた。障害学生に対しては、指導教員や所属の研究科に留まらず、全学的に情報を共有し、サポートしていく必要があり、FD・SD講演会等を通じ、今後も継続して教職員が学ぶことのできる場が必要である。

（講演会の様子）

日本における障害学生の大学等在籍者数が近年急増

日本学生支援機構による調査結果（R3年度）

多様な学生支援体制チェックリスト(まとめ)

- 規程、対応要領、ガイドライン等
- 学内研修、理解啓発
- 学部等における主体性(例:権利を確保する責任の所在を明確化)
- 各部署における主体性
- 支援部署・窓口の設置、周知・広報
- 人員(担当者)の配置、育成、機能強化
- 授業等における合理的配慮のシステム化
- 学内の連携体制の構築(→対象者別ではなく機能分岐を目指す)
- 人的支援のリソースを確保(学生サポーター等)
- 事前的改善措置(情報公開、設備改善など)
- 学生生活全般における障害学生支援(図書館利用、福利厚生、行事、災害時対策など)
- 入学前の対応(オープンキャンパス、大学説明会、入学試験など)
- 社会移行(就労支援等)における対応
- 紛争の防止解決
- 学外ネットワークとの接続・活用・構築
- 関連する支援機関・行政との連携体制

22/12/22 筑波大学FD/SD研修会 講師資料